

聴覚障害児・者の手話教室

みみっとの会

〒714-0061 岡山県 笠岡市 大宜 648-27

助成事業の概要

情報が入り難い為に孤立し易い難聴者と中途失聴者や手話を知らない聴覚障害児・者とその家族等の支援を目的に実施しました。

運営委員会 8名（交通費対象）実施開催 4/6. 5/4. 6/22. 10/22. 12/23. の5回 打合せ 7/6. 9/1

- ・場所：聴覚障害者拠点施設「ふるさとの家」
- ・聴覚障害者講師2名（謝金、交通費対象）「手話方言講座」5/11. 6/1. 6/8. 6/15 ・言語聴覚士講師2名（謝金、交通費対象）「補聴器勉強会」5/19. 9/8
- ・聴覚障害者講師1名（謝金、交通費対象）「体験談」7/27. 8/24. 9/28. 10/26.
- ・聴覚障害児を持つ母親1名（謝金、交通費対象）「子育て体験談」12/23. 平成26年1/25・アルバイト2名 5/5. 2/12（チラシ発送、アンケートまとめ）参加者人数のべ82名。開催に際して案内のチラシを1000枚作成し、福祉関係団体等に配布し、会の終了時に参加者へ感想や意見についてのアンケートを実施しました。

事業の成果

・計4回の「手話方言講座」では鳥取県出身の聴覚障害者と岡山県在住のろう高齢者の2名が講師を引き受けてくださった上、他県出身のろう高齢者の参加があったので、手話表現は地理や年齢によっても影響されることを実感することが出来ました。特に手話表現が同じであるにもかかわらず、

意味が正反対になる手話方言に気づいた時は、健聴者だけでなく、聴覚障害者も、驚きと関心を示しました。日常会話がテーマとし、講師も参加者も聴覚障害者がいたことにより、単に手話方言を習う機会だけでなく、手話を通しての交流の場にもなりました。

・計2回の2名の言語聴覚士による「補聴器勉強会」の1回目は「補聴器と人工内耳の特質や機能」についてで、補聴器や人工内耳のデモ機を実際に触りながら話を聞きました。最新の補聴器の情報を得、また各自の補聴器についての相談をすることも出来ました。2回目は「聴覚障害児教育の変化」と「補聴器の仕組み～人間の聞こえの仕組みと機能」の2つの講演を行ないました。聴覚障害児教育に力を注いだ先人たちを知ることが出来ました。

・計4回の聴覚障害者自身による体験談では、第1回「3歳から補聴器を付けて受けたろう学校教育」、第2回「高齢の両親を介護する日常生活」、第3回「情報化社会での子育て」、第4回「手話を禁止されたろう学校教育」について4名の話をお聴きすることが出来ました。

・計2回の聴覚障害児を育て上げた2名の母親による子育ての体験談では、「身の回りにはたくさん教材がある」「親がやればやっただけのことが子どもの身に着く」「家族が協力することが大切である」「子育てをしながら母親も育つ」等、具体的で貴重な助言を得ました。

その他、今回の事業を通して、補聴器を装着しての早期聴能教育の効果や手話の必要性を確認しました。また、参加した健聴者の中で手話通訳者を

目指したいという若い人達が出てきたことは大きな成果でした。

■ 成果の広報、公表

平成25年7月発行の会報「聴覚・みみっと通信」52号に、「手話方言講座」4回分の報告文を写真付きで載せました。また同号に、第1回目の「補聴器勉強会」についても写真を付けて報告しました。

平成25年10月発行の会報「聴覚・みみっと通信」53号に、「聴覚障害者の体験談」の内、7月27日に行った第1回目「両親の介護について」と、8月24日の第2回目「私の歩んできた道」、9月28日の第3回目「パパになった日」を写真付きで報告しました。また同号に、9月8日に開催した第2回目の「補聴器勉強会」での「聴覚障害児教育の変化—三宅さんを軸に温故知新」と「補聴器の仕組み～人間の聞こえの仕組みと機能」の2つの講演の報告を写真と参加者に記入してもらったアンケートを付けて報告しました。

■ 今後の展開

この度の助成金を頂きましたことを会員一同心より感謝申し上げます。

みみっとの会は発足した時から企業の助成金に応募しながら活動を行っています。

地道な活動を積み重ねていく事で行政などの支援も良い方向に向いつつあると思います。

今後も聴覚障害児・者の理解を広め聴覚障害児・者のコミュニケーションを円滑に行うために支援活動を行いたいと思います。